- 1 派遣期日 平成22年11月11日(木)
- 2 研修先 学校名 東京都文京区立関口台町小学校
所在地 東京都文京区関口2-6-1 <http://www.1.tcn.catv.ne.jp/sekidai-ps/>
- 3 研修内容 研究発表会
研究主題 「自ら考える子どもの育成」 ～算数科の表現する活動を通して～

(1) 授業参観

- ① 参観授業 算数 6年1組 形が同じで大きさがちがう図形を調べよう 末石 一幸 教諭
(しっかり・じっくりコース)・基礎コース
ア 本時の目標・拡大図・縮図の意味を理解する。
イ 本時のテーマ 「わたしたちの町」の地図の形を2倍の大きさにしましょう
- ② 参観授業 算数 6年2組 形が同じで大きさがちがう図形を調べよう 泉 亘宏 教諭
(どんどんコース)・応用・発展コース
ア 本時の目標・拡大図・縮図の意味や性質を理解し作図をする。
イ 本時のテーマ 「わたしたちの町」の地図の形を2倍に拡大しましょう

③ 授業の様子

【児童の様子】

- ・5つの指導過程(つかむ・解決する・伝え合う・まとめる・広げる)で、どちらのコースも授業を展開していた。
- ・主に「どんどんコース」を参観した。落ち着いた態度で課題に取り組んでいた。「解決する」過程では、多様な考えが出されていた。補助線等を上手にを使って拡大図を書いていた。
- ・「伝え合う」過程では、どのように作図したのかを、本人ではなく他の児童が説明する場面があった。自分と異なる考えを説明することで、表現力の育成に繋がると感じた。
- ・地域の地図を使い、「地域安全マップ」を作る目的で本時の課題が設定されているので、必然性があり、児童は興味をもって意欲的に取り組んでいた。
- ・曲線(4分の1円)の拡大を、コンパスを使って正確に行っていた。また、角度を測定する際の分度器の使い方も確実に身に付いていた。

【教師の様子】

- ・「わたしたちの町」の地図を使って、拡大図を作図させていた。実生活と密接に繋がっている課題である。
- ・「しっかり・じっくりコース」と「どんどんコース」の課題は、それぞれの習熟の程度に応じて工夫がなされていた。「しっかり・じっくりコース」では、直線のみで地図で、書きやすいようにトレーシングペーパーを使用していた。「どんどんコース」では、曲線(4分の1円)がある地図で、直接A3サイズの白紙に記入していた。
- ・「しっかり・じっくりコース」「どんどんコース」とも、通常の机の配置で学習形態は同じであった。「しっかり・じっくりコース」では、近くの児童と相談しながら学習を進めていた。「どんどんコース」では、自分で学習を進めていて、落ち着いて取り組んでいて、2つの教室の雰囲気の違いが印象に残った。
- ・問題解決学習の展開を5つの指導過程で授業を展開することで、主体的に学習に取り組ませていた。特に、児童の発言を他の児童に説明させているところは参考になった。

- ・「どんどんコース」では、「広げる」の過程で、今回は模造紙に拡大して、学区の安全マップ等の作成に活用するなど、実生活に結びついているのが感心させられた。

(2) 全体会

関口台町小学校の取り組みの説明(研究主任等)

- ・本校では、算数科の授業を通して、思考力・判断力・表現力を高める指導法の実践研究に取り組んできた。
- ・1年次は、教育目標「よく考えてやりぬこう」の具現化に向け、研修主題を「考える子どもを育てる算数の授業づくり」とし、研究を進めた。
- ・2年次は、1年次の反省や新学習指導要領での算数科の改訂の具現化に向けて、研究主題を「自ら考える子どもの育成」にし、児童が主体的に問題解決活動に取り組めるよう、より算数的活動、特に表現活動を重視した指導の充実を目指し、新学習指導要領で新規に設定されたり、学年が移行したりした単元の授業研究を中心に取り組んだ。
- ・算数の表現する活動を通して思考力の育成を図るため、5つの指導過程を明確にした問題解決学習の一層の定着を図った。
- ・関心・意欲を高めるために、数学的に価値のある本物の課題の設定、自力解決を充実させる指導の工夫、算数の用語を正しく用いて説明する発表・検討の指導、評価の在り方等について研究を進めていった。
- ・算数科においては、少人数指導の充実を図り、単元や児童の実態に即した習熟度別・課題別・均等分割等のコース設定を行い、それぞれのコースに適した課題の設定、教材教具の開発に取り組んだ。
- ・評価の工夫に関しては、座席表による評価を行い單元ごとの評価に反映している。また学習感想を算数コーナーや算数だよりで紹介していくことを重ねる中で、自己評価や相互評価ができるようになってきた。
- ・児童の視点から生活に即した学習課題を設定し、生活の中に生かされている算数を実感させ、「進んで生活や学習に活用しようとする態度」を育てるとともに、算数的な表現活動を通して考えを深め、学んだことを生活や学習に活用していくことのできる児童を育成することを目指し、研究主題を設定した。

4 感想

関口台町小は、近くに公園や護国寺があり、落ち着いて学習に取り組める環境であった。授業終了後に、全体会の前にアトラクションがあり、5年生児童と保護者による親子合唱を披露してくれた。全員が精一杯歌を歌っていて、とてもまとまりがあった。授業を見て、レベルの高さに驚かされたが、この親子合唱からも、関口台町小の素晴らしさが感じられた。

最初参観したときに、まとまって学習に取り組んでいて、児童同士も互いに仲良く相談しあったりしている様子を見て同じ学級の児童が学習していると感じたが、習熟度別にクラス編成をして学習を行っていることを知ったときには、学校としての算数の取り組みが、職員の共通理解の上でしっかりと行われていることを強く感じた。本校でも算数の課題研究を進めているところであるが、習熟度別の授業や、職員が目標を同じにして取り組んでいる様子を見て、今後の研究の参考になるところが多かった。

このような取り組みを公開して下さった関口台町小に感謝したい。